



カジカの学君

V o l . 2 4

発行元 特定非営利活動法人 加治川ネット21
 〒957-0345 新潟県新発田市小戸886-1 TEL0254-31-4111 FAX31-4088
 ホームページ URL <http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/> E-mail kjn21@ml.shibata.ne.jp

会費振込先 郵便局振替口座 00500-5-35812 株式会社第四銀行 新発田東支店 普通口座1196959

変貌するしばた駅前・思い出ウォーキング

この企画は県立新発田病院の移転改築に合わせて、現在、新発田市で進められている新発田駅前区画整理事業で、間もなく駅前のあやめ蔵やJR官舎などの取り壊しが始まることから、今の新発田駅前のまちなみを思い出に残そうと6月の定例会で提案され、急遽実行されたものです。



駅前の大きな倉庫群『あやめ蔵』・・・この辺は、公園になるのかな？



病院工事は始まっています



この辺は病院駐車場かな？



これ、どうするんだろう



駅前は、オープンスペースかな？

突発的な企画ながら、13日の日曜日には6名の会員が集まり、新発田駅周辺をカメラ片手に楽しく散策することが出来ました。これで見納めかと感慨深く見上げる古めかしい建物の他にも、街角の小路を初めて歩くという参加者もいて、それぞれに新しい発見もあったようです。ゆっくり歩いてみると、新発田駅前にも静かで味のある佇まいや生活感溢れる家並みを見付けることが出来ます。みなさんも、暇をみつけてゆっくりと歩いてみてはいかがでしょうか。



この市街地全景は、しばたニューホテルプラザ様のご厚意により特別に屋上から撮影させていただいたものです。

特別寄稿

「春の小川とイシャジャ」に出会って

4月25日に新発田市六日町地区で行われた水生生物調査に参加し、昨年の夏以来久しぶりに新発田市のイバラトミヨに会うことが出来ました。



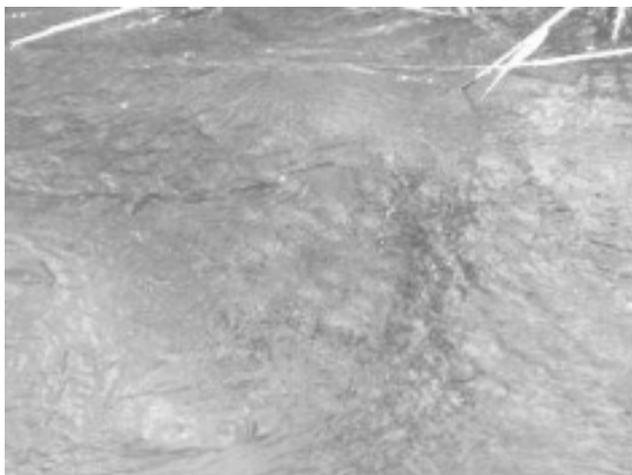
のどかに流れる川は、生き物の宝庫です。(H16年から圃場整備が開始されこの川も無くなります)

六日町の生息地では、成熟した個体も採集され、今年も繁殖が順調に行われる可能性が確認されたことは良い結果だったと思います。

その一方、六日町で採集された成熟個体の体サイズは、他の生息地と比べて小さい感じがしました。これは、水深が浅いなど、イバラトミヨの生息に適した生息域が狭いことが影響しているのでしょうか。昨年の8月の調査では、六日町の稚魚の平均全長は、五泉市のそれと大きな差は認められませんでした。このことから、六日町は稚魚が生息できる環境ではあるが、大きく成長するには十分な環境ではないと思われます。



産卵前のイバラトミヨ♀



いたるところにバイカモ群落がある

また、六日町の調査の後、太齋地区のほ場整備事業の工事箇所隣接した小川の調査を行いました。小川の岸辺にたたずんだ時には、こんなところにも「春の小川」が残っているのかと感動しました。小川の土手には、ムラサキケマンやネコノメソウなど可憐な花々が咲き、河畔には新緑に彩られた木々、水中にはバイカモがゆらゆらと揺れていました。川では、フクドジョウやヤリタナゴ、フナやタモロコなど多くの魚が採集され、驚きは、イバラトミヨがこの小川にも生息していたことです。

六日町の生息地だけは、新発田のイバラトミヨも絶滅の危機が大きいと聞いていたのですが、六日町の周辺にもイバラトミヨの生息地が残されている可能性が今回の調査で確かめられたことは、大きな収穫だと思います。

六日町の下流域での調査は、今回が初めてだったと聞きましたが、加治川ネット21においては、これからも調査を継続され、地域の自然あふれる「春の小川」がいつまでも見られる新発田地域となることを期待しています。

五泉トゲソを守る会 樋口正仁

※『五泉トゲソを守る会』は、イバラトミヨの生息地として世界的な南限域である五泉地域に生息する稀少淡水魚イバラトミヨ(俗称トゲソという)を保護し、併せてトゲソが生息する清流環境を保全することを目的と活動しています。

詳しくは、ホームページをご覧ください。URL <http://www.geocities.jp/gosentogeso/index.htm>

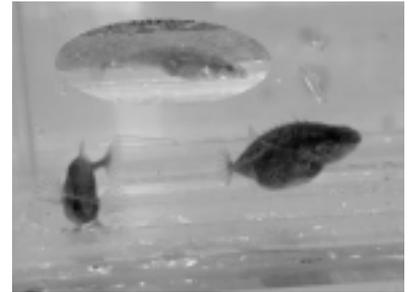
「イバラトミヨ」生息地立合!!



4月30日イバラトミヨの調査が市内六日町及び太齋地区で行われました。今回の調査は4月25日に加治川ネットで実施したイバラトミヨ生息調査の結果を受けてのものです。参加したのは、ネットの会員7人と、県や市の職員など計12人。

←新発田地域振興局農村整備部の石田氏より「圃場整備事業の概要を説明」をしていただきました。

生息調査はこれまで新発田市内の六日町を中心に実施していましたが、昨年、豊浦町と新発田市が合併したため、今年から六日町の下流にあたる太齋地区も調査対象としました。25日の調査で、太齋地区でもイバラトミヨが生息していることが確認されていますが、六日町のものと比べると大きいものには驚きました。



NHK、新潟日報、地元FMの取材を受ける

この太齋地区はバイカモも群生しており、川の幅も流れもイバラトミヨに適した環境のようです。しかし、この地区では、現在ほ場整備事業が進められており、そこを流れる川も、当然、排水路工事の対象となっています。「工事が始まればここのイバラトミヨは間違いなくなくなる」と考えると、心中は複雑でした。

僅か1時間程度の調査でしたが、六日町と太齋で、あわせて7匹（体長3.5～5.5センチ）のイバラトミヨを確認することができました。

調査とは直接関係ありませんが、4月29日に五泉市で行われたトゲソシンポジウムで講師をした秋田県在住のJ助教授（あえて名前は伏せますが）が、太齋の川や景色を見て、「子供のころの風景がここにある」と感激。私たちには身近すぎて気づかない新発田の良さを、Jさんから教えていただきました。

イバラトミヨ 地元報告会

5月25日、太齋地区公会堂において圃場整備地権者と新発田地域振興局、新発田市、関係者らの『環境勉強会』として県営圃場整備事業区間における『生き物調査』報告会を約40名の参加で開催しました。

最初に若月理事長から加治川ネットの説明があり、続いて藤田理事が、この調査までの経緯と「イバラトミヨ」を含む、ホトケドジョウ、スナヤツメなど多様な生物が共生している天辻川のすばらしさを話しました。



続いて、質疑応答となり、地元からは「共生型になることにより管理はどのようにするのか」や「いま、なぜ、この話なのか」などの質問が多く出されました。この答えに対して「地元とともに良い方法を考えなければならない、一緒に考えましょう」と呼びかけました。

『トゲソの観察会&シンポジウム』開かれる

五泉のトゲソは、田んぼの小川に生息しています。

4月29日、五泉市でトゲソの観察会がありました。主催したのは「五泉トゲソを守る会」が『川の散策・蕎麦打ちとトゲソの観察会アンドシンポジウム』と銘打って開催したイベントでしたが、加治川ネット21は「イバラトミヨ水芭蕉の会」とともに協賛団体として参加しました。若月学理事長をはじめ篠田令子副理事長、藤田利昭理事ら計5人が代表として出席し、トゲソの現況調査と他団体との交流を深めました。

今年はゴールデンウイークの開始日でもあり、参加人数が危ぶまれましたが好天に恵まれ、会場となった五泉市の土堀の水路周辺には、多くの家族連れが早くから三々五々

に約70人が集合。午前10時から観察会が始まりました。これに先立って、「五泉トゲソを守る会」の高橋荘三会長は「この会が発足して8年目、観察会も8回目を迎えました。しかし、トゲソは減少傾向にあります。一人でも多くの人に現実を知っていただきたい」と参加者に呼びかけました。



五泉のトゲソは、田んぼの小川に生息しています



アオミドロがへばり付く水路、工場の廃液はなぜが透明？

観察会はAとBの2コースに分かれて行われ、加治川ネット21は河川散策を交えたBコース。善願→中郷屋→大蔵川分岐を調査し、途中、川の水質汚染に影響を与えているとされる工場近辺に立ち寄りしました。参加者のなかから「川の水は見た目にはきれいに映っていますが、実際はどうか心配。川底をすくえばヘドロ状です。生態系に影響がない、とはいえない」と厳しく指摘。また、ある参加者は「地方にとって工場誘致は、雇用面で効果的。しかし、万全な環境対策を講じていただかない」と手厳しい発言。

その後、川東小学校のビオトープを見学しました。校内に設けられた小さな池には、いた、いた、トゲソ君達が生きていました。この確認に、参加者の中から時ならぬ大きな歓声と拍手がありました。

午後からは会場を九区公民館に移し、昼食と発表会が開かれました。お目当ての蕎麦は、会員のみなさんの手づくりのものです。太かったり、細かったりの蕎麦をおいしくいただきました。感謝・感激！



「トゲソの総合学習」発表



秋田での保全事例を報告

発表会では、地元の川東小学校の児童による「トゲソの総合学習」があり、研究成果が大人達を唸らせました。いわく「トゲソは私たちの環境レベルを知らせるバロメータです」と。このあと、秋田県から視察にやってこられた農学博士の神宮字寛先生（秋田県立大学短期大学部農業工学科）から、秋田におけるトゲソを守る取組みなどについて講話がありました。シンポジウムは、地元のみなさんがパネリストを務めました。整備と生態系がテーマ。ある傍聴者は「人間は整備・開発に急ぎすぎた。既存の生態系を外に置いてしまい、経済効果ばかり気にしてきた。結果、このありさまで。トゲソは狂い始めている環境、私たちに警告している」との声が印象的でした。

植物の宝庫『五十公野公園』を歩いて

5月9日（日）五十公野公園で植物観察会が行われました。今回の観察会は『少数でゆっくり観察してみたい』という要望から、あまり大きく宣伝をせずに、新潟日報「緑の守り人」やインターネットを中心に参加者を募集しました。参加したのはネットの会員6名と、一般参加者6名の計12名。

これまでの植物観察会は子供たち向けの自然体験型観察会であったため、一般の人たちとの観察会は今回が初めての試み。最初に若月理事長から「五十公野公園をゆっくり歩き、楽しい観察会にしましょう」と挨拶があり、つづいて植木さんから行程などの説明を受けて、観察会への出発となりました。



五十公野公園を紹介する：植木さん



造園種のスミレがなぜ？



図鑑に出ていないね



山林部にたくさんの種があります



湿原地帯にかわいい花

最初、参加者一行は升湯の裏山（キャンプ場）方面をめざして移動しました。アスレチック広場周辺で花びらの大きなスミレを見つけ、「在来のスミレと違うね？」の声に「誰かが持ち込んだのかな？」と植木さんが答えていました。また、『スイバ』や『クワ』を見つけては、昔、子供の頃には学校帰りに食べたのもだと懐かしそうに口にする人もありました。

五十公野公園には日常食卓にあがる山菜も多く、『タラの芽』『コシアブラ』『アケビの蔓』『ワラビ』『ゼンマイ』などがいたるところで見られました。これらの植物から里山の動植物の多様性を実感し、最後に湿原地帯の木道で、『ミツガシワ』などのかわいい花を愛でながら復路につきました。

5月のすがすがしい気候の中、私たちの他にも遊具で遊ぶ人たちやマス湯周辺でジョギング、散歩、魚釣りをする人など、たくさんの人たちが五十公野公園を訪れていました。

植物の宝庫であり、市民の憩いの場でもある『五十公野公園』をまた満喫しに来たいものです。



加治川ネット21の活動

2004年 4月 1日～ 6月30日

- | | |
|--|--|
| 4月 1日 定例会 | 5月10日 みどりネット佐々木『水辺環境体験学習』打ち合わせ
：若月理事長 |
| 4月11日 加治川クリーン&ウォーク（主催：加治川を愛する会） | 5月20日 理事会開催 |
| 4月15日 加治川と愛する会と打ち合わせ、『加治川の桜調査』 | 5月21日 みどりネット佐々木『水辺環境体験学習』打ち合わせ
：若月理事長 |
| 4月18日 『加治川の桜』生育研究・勉強会
（主催：加治川を愛する会） | 5月22日 新発田川探訪「まちうら散策」開催 |
| 4月25日 イバラトミヨ生息調査：太齋地区（自主事業） | 5月22日 『新潟県トゲウオネットワーク』設立準備会議 |
| 4月29日 『トゲウオ観察会』（主催：五泉トゲウオの会） | 5月25日 『太齋地区イバラトミヨについて』地元説明会 |
| 4月30日 太齋地区イバラトミヨ生息実態検証
新発田振興局と現地確認 | 5月30日 『イバラトミヨ調査』：五十公野地区踏査 |
| 5月 6日 5月定例会 | 6月 8日 『新発田市まちづくり活動支援』説明会 |
| 5月 6日 みどりネット佐々木『水辺環境体験学習』について
：渡辺理事 | 6月10日 6月定例会 |
| 5月 8日 生物多様性保全ネットワーク準備会打ち合わせ：3名参加 | 6月13日 『うつりゆく新発田を撮ろう』開催 |
| 5月 9日 五十公野公園植物観察会 開催 | 6月25日 古太田川親水事業推進協議会総会 田中副理事長、小柳理事 |
| | 6月28日 古太田川親水事業推進協議会「打ち合わせ」：若月理事長 |
| | 6月30日 会報24号発行 |

新発田川探訪「まちうら散策」

5月22日、新発田川に沿って歩き、川や街並みを観察しようという、名付けて「新発田川探訪まちうら散策」が行われました。これは加治川ネット文化部の今年度初事業。ネットの事業というと専門家が多いせいか、最近では生物、植物に関したものが中心で、参加者が固定化してきているため、もっと大勢の方が参加できる事業をと、今年文化部を作り、活動を開始しました。文化部といっても、会員や参加者に文化知識を要求するのではなく、要は「専門知識のいない、何か知らないけど楽しむ企画を考える」つまりは、なんでも屋です。



新発田川上流部



水が少なく昔の面影がない



金升酒造の敷地を川が流れる



酒の瓶で護岸が作られている

さて、まちうら散策当日の参加者は市内外から30名。豊町の旧町田金魚店から出発し、堰が閉められほとんど水の流れていない新発田川を見ながら金升酒造へ。ここでは、会社の敷地内を新発田川が流れており、高橋社長が仕事の手を休め、素敵な庭や焼酎の瓶で護岸整備をした川などを案内してくださいました。余談ですが、このはその昔、辺り殿様の菜園所だったそうです。水がきれいで、水量豊富な場所だったということなのでしょうね。

新発田川はそこから国道290号を横切り、農業高校裏や清水園横、寺町、そして庚申堰へ。川沿いの風景は昔ながらの様子を残し、風情のあるところも多かったのですが、残念ながら、川は汚れ放題。洪水防止などのため、新発田川の水量が少ないのはしかたがないとしても、せめて、川へごみを捨てることだけはやめてほしいと思いました。

庚申堰から少し回り道をして、旧四ノ町の長屋造りの家並みや台輪を見学。平久呉服店では、急遽ご主人から昔の風情を残す店構えや、昔の商いの説明を受け、「古い文化」の学習もすることができました。



志まで豪華な弁当



川瀬先生から歴史を勉強

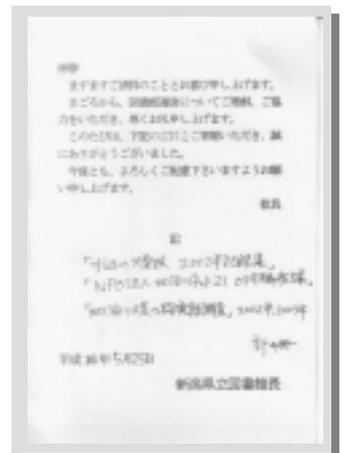
いよいよ、食文化の学習(?)のため、豪華弁当の待つ昼食会場へ。和気あいあいの雰囲気の中で食事をし、最後の締めは川瀬勝一郎さん(元市立図書館長)の話「新発田川の今昔」。わずか半日程度の散歩でしたが、環境、景観、歴史、食文化、知らない人との出会い、そして軽運動、たっぷり「文化度」を高めさせていただきました。

「新潟県立図書館に寄贈」

新潟県立図書館より加治川ネット21刊行による書籍の購入と寄贈の申し出がありました。

加治川ネットとしても新潟県民のみなさんに私たちの活動を理解していただく良い機会と思い寄贈することにしました。5月25日加治川ネットに対し新潟県立図書館長より礼状が届きました。

もし、新潟県立図書館に行った際に加治川ネット21の刊行物がどこに並んでいるか探してみてください。



「加治川桜堤クリーン&ウォーク」に参加して

去る4月11日（日）Am9：00から加治川を愛する会、加治川桜堤復元市町村連絡協議会の主催による「加治川桜堤クリーン&ウォーク」が四市町村から約270名参加し行われました。また、加治川ネットからも10名参加しました。



新発田市からは約90名の参加で新発田市西名柄の加治川第二頭首工から出発し、さくら大橋までの約3km間を満開の桜を愛でながら路上のごみ拾いに汗を流しました。今年は、例年より一週間も早い桜の開花でした。早く咲くことは良いのですが、まだまだ地球に温暖化の要因が多くあることが心配です。



みんなで頑張ろう



ぺちゃんこの空き缶発見



今年は4月初め満開です

四市町村から出発した参加者がさくら大橋に集合後、合同のイベントが開始されました。加治川を愛する会、たかたかしさんと加治川桜堤復元市町村連絡協議会、紫雲寺町長鬼嶋正之さんの挨拶があり、その後石井愛さんによるキーボードの演奏と歌による音楽会が行われ、参加者で「さくら」「手のひらを太陽に」「世界に一つの花」を合唱しました。



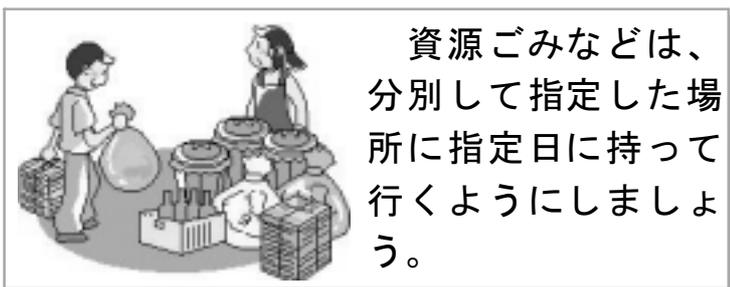
たかさんの挨拶



石井さんの演奏

最後に新発田市立東豊小学校、紫雲寺町緑の少年団など、参加四市町村の児童による記念植樹が行われました。しかし、相変わらず加治川の土手には農業用のビニールやタイヤなど故意に投棄したと見られる物が多く愕然としました。加治川の桜も口がきけたなら何と嘆くでしょうか？

新発田地域の生命線加治川をいつまでもきれいに保ち次世代につなぎたいモノです。



加治川の桜を調べる

4月18日加治川を愛する会の依頼で加治川堤の生育のわるい桜の調査を実施しました。

当会の田中副理事の指導もと、愛する会の市島、木村、諸橋、池田諸氏の幹部の参加者らと現地を巡りました。

会より生育のわるい箇所を見て欲しいとのことに対して田中副理事はまず土を掘って調べてみたいとのこと、樹の根元と、2m離れた場所の土の状態を調べてみました。



テングス病発見、枝を切る



野焼きで根本被災

調べてみると、桜の植えられている堤の表土には硬い赤土が30cmから40cm敷かれておりその下に砂質土が敷設されていました。この赤土では水が浸透しない。また、根が張り難く、下の砂質層では入った水がすぐに抜けていくとのことでした。



赤土の下は砂だ



砂では育ちません

また周囲の法面には春前の土手の野焼きの跡が一面にみられ、桜の支柱や樹の根元をも焦がすほど火が達しており、今年の蕾の途中で生育が止まってしまったものの原因ではと疑われるものがありました。

またいくつかの木にはテングス病もみられ、これはその場で除去し処置を施しておきました。さらに、風雪の強い場所では樹形が偏向しており、やはり土手特有の風環境下での影響もあるのではないかとのことでした。

一方で比較的順調に生育している木については、その土壌が砂と土分が適度に混ざり合って根の生育を阻害していないことが確認されました。

総合的には、どれか一つの原因ではなくそれぞれが複合的に混ざり合わさった原因だろうということでした。



外での調査ご苦労さまでした。



田中さんから調査報告



安藤潔氏講演会

午後からは愛する会の一般会員らにも午前中の成果を現地と学修センターで説明をしました。当面の維持保全についての活動の課題と方向性が検討されたところです。また、村上の桜丘高校を退職後に桜について研究している安藤潔氏の「桜と日本人」についてその諸説を出版された同本のいきさつ共々興味深く聞くことが出来ました。

今後の双方の会の交流活動が、加治川桜堤の育成に繋がるとの加治川ネット21若月理事長の閉会の挨拶で終了いたしました。参加された方々ご苦労さまでした。



櫛形山脈～日本一小さな山脈をゆく～

加治川ネット21で初めての低山ハイキング。

場所は、新発田市・加治川村・中条町などを股にかけた日本一小さい櫛形山脈。今回はその一角、箱岩峠から大峰山をかすめての法印瀑コースが選ばれました。当日は新潟市の関口さんを迎え、6名で出発。

各自の車で、貝屋温泉「桜の湯」に移動した後、箱岩峠から入山し、菅谷側に下り、まずは日本三大不動明王の一つである菅谷不動尊へ。林道を進んでから大峰山の標識を見て、尾根筋を登り上げると、ベンチのある見晴らし場に出ます。

しばらく見晴らし場で蒲原平野を眺めながら休憩した後、古城山にまつわる空堀を検証しながら歩いてきたため、知らないうちに古城山を通過。



峠のゲート前で



あそこが加治川中学校・・・？

山ではヤマボウシとツツジが目につき、みちみち木苺を試食。旧塩津湯や加治川の川替えの話をしてしながら2つ目のベンチを後にして林道を進み、東屋の先の分岐点を右折して縦走路へ出る頃には、暑さとともに疲れも感じられます。林道を横目で見ながら登り上げ、何故こんなところにあるのかと思われる環境省の中部北陸自然遊歩道の文字と木杭にロープを通した安全柵に、公共工事のあり方について一頻り盛り上がり、思ったよりも長丁場のアップダウンのあるコースも法印瀑超え下りにはいると涼やかな沢音が聞こえてきました。

樺の大木に感嘆し、大椽の木に見惚れながら冷たい沢水を手で汲んで飲むと、みんな、やっと心地をつくことができました。

その後の法印瀑では天然のマイナスイオンをたっぷり吸い、大瀑の上部を恐る恐る通過して杉林をぬけると木が檜に変わります。登山道を境に大瀑側の一角が檜林になっていて、その通って堰堤を見ると今回の櫛形山脈トレッキングもいよいよ終点。

堰堤から貝屋温泉までは、暑く、つらいトレッキングを振り返って話が尽きず、途中、林道脇の水路がU字溝になっているところで「こんなところに落ちると蛇でも上がれないね」と言っていたら、本当に蛇が流されてくる始末。救い上げようにも流れが速く、走るが間に合わない。しかし、U字溝は林道脇だけで、杉林に入ると土水路だったのでホッとしました。

古城山では歴史の一端に触れながら糞転がし（甲虫）に感動し、里山の開発を垣間見ることで、あらためて人間の活動と自然環境のあり方を考えることが出来た、今回は、そんな櫛形山脈のトレッキングでした。



糞転がし（甲虫）

【コース概要と周辺説明】

箱岩峠は、加治川村箱岩と新発田市菅谷を結ぶ県道の峠。峠を菅谷側に下ると日本三大不動明王の一つである菅谷不動尊へと至る。櫛形山脈は新発田市、加治川村、中条町、黒川村にまたがり、鳥屋ノ峰、箱岩峠、古城山、法印ノ峰、櫛形山、烽火跡、山居寺城跡のほか、黒川村の胎内観音がある鳥坂山、中条町の白鳥山などを抱える延長約13kmの縦走路を持つ日本一小さい山脈である。

※要害山から鳥屋ノ峰、箱岩峠の間は、登山道がわかり難いので歩くときには注意してくださいね。

新発田市公式ホームページに掲載

加治川ネット21のホームページが『新潟県新発田市』公認ホームページのリンク集に掲載されました。アクセスの方法は下記の通りです。

”アクセスの方法”

①ルーラーを1番下まで”左クリック”して下げる。



②目的のリンクを”左クリック”する。



③『まちづくり団体など』のカテゴリの加治川ネット21を”左クリック”します。



④加治川ネットにリンク



新潟県新発田市のホームページ URL <http://www.city.shibata.niigata.jp/>

7月～9月 催しのご案内



2004年 「水辺の大楽校」 ぼくらは加治川探検隊！！

加治川には、いろんな生き物がたくさんいるよ。

わくわく生物探検！！ なぞなぞ植物探検！！

夏休みの一日、加治川の水辺で楽しく遊びながら魚捕りや押し花の体験学習をしてみませんか。
加治川で泳いだり、河原の竹で水鉄砲作ったり、わくわくどきどきの探検です。

きっと楽しい一日になることはまちがいありません。

さかな博士やお花博士、加治川の遊びの達人たちがみんなに加治川の不思議をやさしく教えてくださいます。

記

日時 平成16年7月25日（日曜日）

時間 9：00～14：00予定（8：30受付）

小雨の場合は、五十公野公園探検になります。

中止の際には、主催者から電話連絡します。

場所 新発田市上岡田天然プール（現地集合）

参加費 子ども500円・大人1000円 当日徴収

（資料代、教材費、トン汁代、保険代）

受付期間 7月5日（月）～7月16日（金）

申込方法 電話0254-31-4111

若しくは、メールにて kjn21@ml.shibata.ne.jp

※保険の関係上、必要項目を記載の上、電子メール・FAXにてお願いします。

服装 サンダル・水着・着替え・タオル

持参品

昼食、帽子、虫除けスプレー、履き物、敷物、飲み物、

筆記用具等。釣り竿等（自分のやりたいコースの道具）

参加対象 小学校3年生～6年生（保護者要同伴）親子25組（50名）



～この活動は、新潟県新発田地域振興調整会議の受託事業で運営しています～

高野孝子さんミニ講演会

～冒険と環境：北極を舞台にした環境教育～



日時：平成16年7月10日（土）

時間：13:00～14:15

場所：ビュー福島潟6階（予定）

費用：ビュー福島潟への入館料400円が必要です

高野さんプロフィール

1963年、新潟県生まれ。「ジャパン・タイムズ」の記者を経て、92年に「人と自然と異文化」をテーマに環境教育活動を行うエコクラブを設立。オーストラリアでの海洋調査、アマゾン川カヌー下り、など、国内外で数多くの野外活動に関わる。94-95年に北極圏を犬ぞりとカヌーで横断した国際隊に参加の際にはインターネットで世界の学校と交信をし、大きな反響を呼ぶ。94年には、「ワールドスクールジャパン」を立ち上げ、各地の学校や青少年団体をつないだ環境教育をはじめることになる。2003年に「エコクラブ」と「ワールドスクール」の双方を包括するNPO法人エコプラスを設立しその代表に就任した。現在、イギリスのエジンバラ大学で環境教育・野外教育の博士課程に在籍。大きなテーマは「ひとと自然の関わり方」。2002年、社会貢献活動に献身する女性7名に向けたオメガ・アワードを、吉永小百合さん、緒方貞子さん、黒柳徹子さんらとともに受賞。

夏休みこども劇場

『シンデレラ』

とき 8月1日 13:00 開演
(12:30 開場)
料金 前売り券 600円 当日券800円

『赤毛のアン』

とき 8月1日 16:00 開演
(15:30 開場)
料金 前売り券 600円 当日券800円

赤毛のアンは昨年新潟市民芸術会館で上演したものの再演です。

劇場中は、涙、涙、涙でなかなか好演でした。そこで、図に乗ってもう一度やってみようという試みです。

さらに今回は「さらに今回はもう一本やってみようという試みです。

「赤毛のアン」に張り合うにはもうこのキャラクターを登場させるしかない。

といわけで「シンデレラ」です。

でもこも「シンデレラ」もなかなかのツワモノです。どうツワモノか？は見てのお楽しみ。

今回ははじめての移動公演です。

新発田の皆さんに元気な舞台をお届けします。アプリコットの舞台は、きっと何か感じ取ってもらえるはず・・・。

主催／アプリコット新発田公演実行委員会

共催／新発田市、新発田市教育委員会、(財)新潟市芸術文化振興財団、下越演劇鑑賞協会

協賛／加治川ネット21、鼓童 IN SHIBATA 実行委員会

後援／新発田商工会議所、新潟日报社、新発田青年会議所、新発田商工会議所青年部、新発田タイムズ、エフエムしばた

特別協賛／(株)アートグラフィック新潟

企画・制作／新潟市民芸術文化会館

